

溪風葉新聞

葛葉 槭樹

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

私は鴉天狗の濡黒 結（ぬれくろ ゆい） 筆名は止枝 秋暮。
ここまで来るのに長かった。

まずはカメラを買うために人里でのご労働。

最初はこつこつと蕎麦屋のかわいい看板娘をしていたのですがカメラを買う頃には赤子が大人になるほどの給料だったので一気に転職。

ついた仕事は酒場の女。

しかもこの店、なんと男性立入禁止の女の園。

妖怪や天狗は余り生殖と言うものにこだわらないので同性愛も盛んというのは常識ですが流石に異性愛ほどではないだろうと高をくくって働いた訳ですがなんと私を巡って二人の女性の果たし合いにまで発展しまして。

結果的に買った方にお金を出してもらって私の今のカメラがあるわけです。

そしてそんな血にまみれたカメラで取りたいのは幻想郷を揺るがす大事件！という訳ではなく単に幻想郷の流行りや美食といった軽い物を取る予定でございます。

というのも大事件だとやっている天狗たちにとって水増しやら脚色は当たり前。

新聞なんてものに現実はないと考える方が多い昨今、逆に素朴な真実を書き連ねていくというのは斬新ではないのかと思っただ次第。

さてそんなこんなそろそろ前語りもお終いの時となりました。

それでは流行を流れゆく妖怪の山の川に、そして風に流れる紅葉に例えた私、止枝の拙文。

溪風葉新聞（けいふうよう新聞）ぜひお楽しみください

目次

クリスマスとはなんぞや

私、止枝初の記事でございます。

新聞と言っても合同誌の中のほんの数頁、あまり気負い過ぎずまるで流されゆくこの齒のように書いていきたい所存です

さて師走ももうすぐ大詰め、皆さんいろいろと忙しいとは思いますがその手を少しだけ休めてこの文に目を通してみてください。

いやいや忙しいんだって。わかりますわかりますそのお気持ち。

東洋だけではなく西洋もまたこの時期は忙しいものでございまして。

今回はそんな西洋の年明け前のお祭り、”くりすます”についての記事でございませぬ。

皆さんくりすますと言って、何が思い浮かぶでしょうか。

栗と鱒？それとも西洋人のクリスマスさんの作った枅？

もちろんどちらでもありません。

そんなくりすますについて人里に聞き込みに行つてまいりました。

まずは見た目が明らかに西洋人な紅魔館のメイド、十六夜さんに話を聞きました。

「クリスマスは12月25日でケーキを食べる日よ。今ちようどケーキの材料を買つたところ。」

ケーキというのは西洋の小麦粉を使ったお菓子でございましてパんにクリームと言う牛の父から作る甘いふわふわした物をかけたもの。

丑の日のウナギや冬至の南瓜のように何かしらの意味があるのかと聞いてみたところ無いとのこと。

これはより深い調査が必要そうですね。

さてお次は完璧に西洋人の人形遣い、マーガトロイドさんにお話を

聞いてみました

「クリスマス？ツリーを飾るわ。後はいつも通りよ。」

さしてきてケーキは何処に行ったのか。

そしてツリーとは何なのか。

「もみの木よ。それの上に天使をかたどったこういう人形を置くの。」

そう言うともマーガトロイドさんの背中からパツと人形が飛び出てきました。

相変わらず細々しい魔法です。

そしてその飾るといふ赤と白の服に白い羽を生やした人形をクリスマスのためにマーガトロイド売ります。

この記事を読んでいる皆さん、人里の〇〇商店に卸すそうなので是非買しましょう。

そしてケーキについて聞いてみたところ私は食べないけど家にいたときは25日ではなく26日に食べたとのこと。

果たしてこれは暦の差なのでしょうか？

それを知るためにも足で情報を集めます。

しかし情報とは集めようとする存外集まりにくいものでして。

ですが時折自然に舞い込んでくるものでもあります。

情報収集の疲れを癒やそうとふらりと屋台に入り絶品とヤツメウナギと店主の歌声に酔いしれていたのですがなんと店主は西洋人。

名をミステイア・ローレライと言う夜雀の妖怪で今は歌手もやっているとのこと。

これは聞くしかありません。

「クリスマスは店にツリーを飾るわけには行かないから代わりにもみの木の下で店を開こうかしら。食べるもの？シユトレンね。はいこれ。」

そう言うのと薄切りにされたパンを渡されました。

「これを食べるのよ。」

少なくともケーキの端っこを薄切りにしたというわけではないそうです。

ますます謎は深まるばかり。

さてどうしたものかと二軒目に行くと今度は喧嘩をする二人の妖怪と出会いました。

店主も明らかに止めてくれと言わんばかりの表情だったのでこれは鴉天狗の腕の見せ所。

二人を諫めて喧嘩の原因を聞くとぜんざいとは何かで喧嘩になっていたようです。

私はぜんざいというと粒餡のお汁粉なのですが人によっては金時のことをぜんざいと言ったり違うものですよね。

ここでなぜクリスマスと言っても人によって違うのかがわかりました。

私達は一口に西洋といいますますが西洋にも場所ごとに多少の文化の違いがあるのでないでしょうか。

そのため各々のクリスマスが違うのでしよう。

きつとそうに違いありません。

考えてみたら単純な話でした。

みなさんも思い思いの、自分が気に入ったクリスマスの過ごし方をするのが正解でしょう。

それではみなさん、また次の記事にてお会いしましょう